

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### ① 学生の確保の見通し

##### ア 定員充足の見込み

情報科学部が設置された平成 30 年度以降における情報科学部の入学志願状況（資料 1）から、定員 80 人に対して、各選抜（一般選抜（前期日程、後期日程）、広島大学光り輝き入試総合型選抜（II 型・国際バカロレア型）、外国人留学生選抜）の合計数として志願者数が 243 人から 282 人、受験者数は 207 人から 249 人となっている。ここで受験倍率は 2.4 倍から 2.9 倍となっており、長期的かつ安定的に学生を確保している。

一方、魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増 50 人と学内措置による定員増 20 人の合計 70 人分の定員充足については、広島大学光り輝き入試学校推薦型選抜（大学入学共通テストを課さない選抜）を新設し 45 人の募集を行うとともに、一般選抜（前期日程、後期日程）と光り輝き入試総合型選抜 II 型において 25 人の募集人員増を予定している。広島大学光り輝き入試学校推薦型選抜では、地方創生に資する人材育成・確保の背景から、広島県が地元就職のインセンティブ制度として開始する独自の奨学金を入学者を対象に貸与する。この奨学金制度は、広島大学情報科学部だけでなく、広島県内において情報系学部・学科を有する国公立大学に適用されることとなっている。

広島大学光り輝き入試学校推薦型選抜における受験生確保について、広島県内にある複数の高等学校で、校長を含めたヒアリングを行い、実施の可能性について検討を行ってきた。広島大学光り輝き入試学校推薦型選抜における 45 人は、奨学金の貸与や、広島大学志願層での地元志向性、実施予定の特別入試の内容（大学入学共通テストを課さない予定）等のヒアリング結果から、一般選抜と同程度である 3 倍程度の志願倍率が見込めることを確認している。また、魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増 50 人の内の 5 人と学内措置による定員増の合計 25 人は一般選抜及び広島大学光り輝き入試総合型選抜（II 型）で募集し、前期日程を 72 人から 90 人、後期日程を 6 人から 10 人、広島大学光り輝き入試総合型選抜（II 型）を 2 人から 5 人にそれぞれ増員する。一般入試における受験生の確保においても、過去の受験倍率の実績から定員充足が十分見込める。

##### イ 定員充足の根拠となる客観的データの概要

過去 5 年間の情報科学部の入学志願状況等は資料 1 のとおり。定員 80 人に対して、各年度における志願者数は 243 人から 282 人であり、受験者数は 207 人から 249 人となっている。合格者

数が86人から90人に対して、入学者数は83人から87人であり、入学辞退者数は1人から7人に留まっている。歩留率は92%から97%となっており、定員超過率は105%から110%となっている。

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

情報科学部では、入試広報委員会主導のもとで、学部の専任教員が一体となって、学生確保に向けた広報活動を行ってきており、今後も学生確保に向けた活動を実施する。具体的な過去の取組及び今後の活動予定は以下の通りである。

### (a) オープンキャンパス

8月に開催しているオープンキャンパスにおいて、情報科学部として独自に広報を行っている。オープンキャンパスでは、学部の特徴、入試、想定される就職先などについて、高校生や教諭及び保護者に対して説明会を実施するとともに、高校生向けの公開講座も実施している。情報科学部新設前年度の平成29年度から実施しているが、平成29年度508人、平成30年度755人、令和元年度680人の参加者があり、多くの高校生が興味をもっている。各年度に公開講座として、情報科学部で実施されている4つの講義を受講できるようにすることで、情報科学という学問の魅力を発見する機会を提供している。オープンキャンパスは、令和2年度と令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンライン配信にて実施している。令和4年度は、「対面での説明会及び講演会の実施」と「オンライン配信」のハイブリッド開催を予定しており、学部の特徴、入試、想定される就職先などの広報を行う他、新しい入試制度や奨学金制度についての説明会を開催する予定である。

### (b) ホームページやパンフレット等による広報

大学広報誌「広島大学で何が学べるか」により、広島大学に興味のある高校生に、情報科学部の広報をしている。また、情報科学部パンフレットを作成し、高大連携事業、高等学校訪問、オープンキャンパスなどで高校生に配布し、情報科学部へ興味をもつきっかけにしている。さらに、情報科学部のホームページでも、情報科学部の特徴、カリキュラム、進路などについて様々な情報を公開している。

### (c) 模擬授業（出張講義）・大学訪問

広島大学では、高校生を対象とした模擬授業（出張講義）及び高校生の大学訪問を実施しており、情報科学部の教員が模擬授業を実施するとともに、受講した高校生に学部の説明や研究の説明などを行っている。令和4年度も継続して実施し、情報科学部の学生確保に向けた広報活動を行う。

### (d) 大学説明会・入試説明会での広報

高校生、受験生、保護者等を対象に「広島大学説明会」、高校教員を対象に「広島大学入試説明会」を開催しており、それらの説明会でも、情報科学部の学生確保に向けた広報活動を行う。

### (e) 高等学校訪問

広島大学高大接続・入学センターの教員と協力して情報科学部の専任教員が、広島県内の高等学校を中心に訪問し、学部の特徴、入試、想定される就職先などについて広報活動を行う。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

平成30年度以降、本学情報科学部ではインフォマティクスとデータサイエンスの2コースを開設し、これまでIT分野に特化した情報教育を大幅に拡充し、計算機科学とデータ科学の統合的な教育を行ってきた。一方、「AI戦略2019」以来、産業界や学術界における教育・研究の新しい方向性として人工知能応用が掲げられ、IT・計算機科学、データ科学、人工知能の3領域が我が国において最も強化されるべき最重要デジタルリテラシー分野（Di Light）として注目を集めている。技術革新の流れが極めて速い情報科学分野において、社会や産業界の要請に応えるべく高等教育の内容を頻繁に見直し、IT分野に限らずあらゆる領域においてデジタルの知識やスキルを応用することのできる高度産業DX推進人材が求められており、特に「デジタル田園都市国家構想」を地方から力強く牽引することが期待されている。

以上の背景から、本学部では以下の知識と能力を身につけた人材を育成する。

#### [学部共通の人材育成像]

- ・情報基盤の開発技術、情報処理技術、データを分析して新しい付加価値を生む技術をバランスよく獲得している。
- ・新たな課題を自ら発見し、データに基づいた定量的かつ論理的な思考と、多角的視野と高度な情報処理・分析により、課題を解決する能力を身につけている。
- ・英語の読解と論理的な記述、明解な口頭発表を行うためのプレゼンテーション能力、闊達な議論を可能とするドキュメンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけている。
- ・実際的な問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力やこの解決策を実現する能力を身につけている。
- ・人類や社会そして個人に存在する様々な問題が、社会情勢や文化等によって多様に解釈できることを理解した上で、その問題解決に向けた取り組みができる知識と能力を身につけている。

#### [計算機科学プログラムの人材育成像]

- ・計算機科学の基礎となる理論体系を理解し、科学的論理性に基づいた情報処理技術を駆使して、高次元データを収集・処理するための知識と能力を身につけている。
- ・ハードウェアとソフトウェアの知識及びデータを効率的に処理する開発能力を身につけている。
- ・多様化、複雑化した情報社会における分野横断的な課題に対して、豊富な最先端情報技術に基

づいて、最適なシステムソリューションを導く能力を身につけている。

#### [データ科学プログラムの人材育成像]

- ・統計とデータ解析の理論体系を深く理解し、ビッグデータの質的／量的情報を的確かつ効率的に分析する能力を身につけている。
- ・データサイエンスの幅広い知識と技術を駆使して、統計的証拠に基づいた組織戦略・立案を担える能力を身につけている。
- ・複合的に絡み合う社会的ニーズや課題を俯瞰し、データに基づいた定量的かつ論理的な思考と多角的視野と高度な情報分析能力で課題を解決する能力を身につけている。

#### [知能科学プログラムの人材育成像]

- ・人間が持つ高度な知能とその計算機による実現についての体系的な深い理解力を身につけている。
- ・人工知能や IoT などの応用や発展に寄与できる情報処理能力やデータ分析能力を身につけている。
- ・複合的に絡み合う社会的ニーズや課題を俯瞰し、データに基づいた定量的かつ論理的な思考と多角的視野と高度な情報分析能力で課題を解決する能力を身につけている。

#### ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

広島県と他の地方ブロックの中核道県を比較すると、大学進学者収容力が相対的に低く、他の年齢では差がないものの20～24歳の若年層の転出率が高い(資料2)。広島県において若者に魅力ある大学と就業の場を確保することは、地方ブロックにおける若者定着のダム機能確保のためにも喫緊の課題である。現在、広島県は長期ビジョンに基づき、大学進学時及び就職時における転出超過削減のため、実践的高等教育(デジタル人材育成等)の充実に取り組んでいるが、県内産業の競争優位を確立し、魅力的な就業の場を確保するために、政府が進める「デジタル田園都市国家構想」を牽引する、産業DXを担う人材の育成・集積を推進することが必要とされている。

広島県による「デジタル社会における県内企業等の経営課題及び人材確保に関する実態調査結果(全体集計/クロス集計)」(令和3年2月調査、同12月公表、対象:県内事業者2,756団体/15,000団体(回収率18.4%))(資料3)によると、県内の100人以上の事業所の70.8%がデジタル人材の育成・確保ができていないと回答しており、これらの事業所からは、データの扱いに精通した人材(データサイエンティスト)やデジタル活用人材等については新卒採用により獲得をしたいという要請があることが分かっている。企業の規模別にみると、100人以上規模で41団体、10人から100人規模で92団体が新卒採用を行うとしており、前者が毎年採用、後者が3年ごとに採用を行うとしても、毎年50人を超える採用規模が確認できる。

また、内閣府エビデンスシステムの「人材育成に係る産業界ニーズの分析(見える化)」によると、広島県の技術系人材(全業種・全職種)は、設計工学、生産工学に次いで、「人工知能・機械

学習・知識処理」が産業界の業務及び事業展開・成長に重要な専門知識分野（最重要分野）となっている。計算機科学・データ科学・知能科学の3プログラムにおいて、専門的知識分野を学ぶ体系的なカリキュラムを有する情報科学部だからこそ、この人材育成のニーズに応えることができる。

また、個別企業に対するヒアリング調査を行った結果、県内に本社・工場、多数のサプライヤーを有するマツダ(株)は、MDI（マツダデジタルイノベーション）を推進中であり、車載ソフトウェア開発など、当面、既卒を含め200～300人の高度なDX人材（セキュリティ対策、画像診断等）への計画的採用を行っている。また、戦略物資の半導体(DRAM)のわが国唯一の拠点であるマイクロンメモリジャパン(株)では、ビッグデータ解析等による効率的生産を実現するためにデータサイエンティストの新卒求人を開始している。その他、食品（オタフクソース(株)、アヲハタ(株)等）等の製造・製品管理にもデジタル人材を活用することが開始されており、広島県内のモノづくり企業におけるDX人材の需要は極めて旺盛であることが分かっている。

また、県内に本社機能をもつ流通大手の(株)イズミ、(株)大創産業、マックスバリュ西日本(株)、青山商事(株)等も、ビッグデータの活用に積極的であり、DX投資及びデジタル人材採用を開始している。物流大手の福山通運(株)、県内最大規模の金融機関である(株)広島銀行、インフラ整備の分野では中国電力(株)や大手土木・コンサルタントの復建調査設計(株)など、幅広い分野でデジタル人材の獲得を開始している。

以上、広島県の実態調査における回収率が18.4%であることや、地元産業界のヒアリング等から、やや控えめにみても、定員増の3～4倍の社会的、地域的な人材需要が十分に見込まれる。